



事業継続計画

カナメ

電気の確保

BCPの要は電力

- 水・ガス・燃料・飲料・食料・医薬品…カタチのあるモノは運搬できます。
- 電気はカタチがないので運搬できません。
- すべての事業は、電力がある事を大前提に計画されています。
- 人間は空気がなければ生存できません。事業は電気がなければ継続できません。

多目的発電装置付サービスカー

移動式EV充電&非常用電源車

最大出力 50kVA の電力で事業継続・災害対策を支援



EV-Car



Home



Office



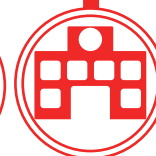
CVS



Shop



Clinic



Shelter



Work shop



Some thing





開発ストーリー

実は建物に給電する装置を製作する事は、以前からの計画ではありましたが、実現を急ぐモノではありませんでした。しかし、平成 30 年 9 月の北海道胆振東部地震の際、北海道札幌市近郊の弊社ユーザー様から電話をいただいた事で、開発に拍車がかかりました。

ユーザー様は、タイヤショップKのS様です。S様が地震発生当日の夜、全道が全域停電しブラックアウトする中、以前のお納めしたお車の傍らで、弊社代表三輪に電話をされました。「三輪さん、今ね。タイヤサービスカーで発電して、照明をつけ、電気調理器具を使い、ビールを飲んで寛いでいます。周りが真っ暗中、明るっていいよね。サービスカーにこんな使い方があったんだね。」と話されました。

私たちは、商用系統電力未到達の場所で業務を行う為に、車載発電装置を開発してまいりました。いつかは危機管理の一環として、建物への給電を漠然と考えていましたが、現実困難に直面し、私たちの製品で、幾ばくかの方たちが少しでも不便を解消できている事実に衝撃を覚え、代表の三輪を中心として一気に製品開発を加速させたという次第です。北海道胆振東部地震で、大規模停電から復旧したのは9日後でした。同じく平成30年の台風21号で、大阪北部を中心に電柱倒壊による停電が回復したのは4日後でした。もちろん大規模工場や大病院は自社のバックアップを備えてあります。御社はいかがでしょう。納期〇月〇〇日に製品Aを〇〇個納品…納期遅れは△△のペナルティーまたは、契約撤回…、製品納品は完了できたが、起伝処理、請求処理が不可能…。避難所に退避したけれど、停電で空調が動かない…。食材はあるけれど、調理器具が使えない…。飲料水や食料は配給されるとして、生活環境は著しい窮状です。まして非常時の事業継続は困難を極めます。

電気を必要とする出張業務を行っておられる事業者様には、荷室すべてをサービスカーとして活用いただけます。

自家発電装置を備える事業者様には、低ランニングコストの発電装置として。また、食品配送などを行われる事業者様には、冷蔵・冷凍設備の非常電源として、あるいはお店の給電装置として。

無いに越したことはない非常事態。しかし「平成」は、非常事態発生が極めて多く、深刻な時代でした。いざという時は必ず到来します。弊社の多目的発電装置付サービスカー&非常用電源車、ご検討いただければ、誠にさいわいです。

仕様と使用

トラックの走行用エンジンに直結された発電機で発電する為、発電機駆動用の別エンジンを必要としません。つまりトラックの定期点検や車検をうけるだけで、発電装置の稼働が確保される為、ランニングコストがほとんど発生しません。また、発電装置は、発電機本体はエンジンルームに、制御機器類は荷室仕切版収納部に、リチウムイオン電池はフレーム間隙部に設置されるので、荷室面積に発電装置占有がありません。これは、平時の業務に発電装置類がまったく支障せず必要な時に、運転席にあるスイッチひとつで電力が得られることを意味します。これが弊社のTrue-G・発電システムです。表面車両の発電電力は、非常時の給電を考慮している為、リチウムイオン電池の搭載量を増やし、長時間給電あるいは大容量給電が可能な仕様としています。トラックの走行用エンジンを掛けて発電機を併用して使用するならば、さらに長時間の給電が可能となります。

